渡辺さんたちに優秀賞

土づくりコンクール

第一回豊栄市土づくりコンクールが行われました。

これは、昭和五十四年度稲わら有効利用対策特別事業（県単）の一環として開催されたもので、農家及び集団が創意工夫して土づくりに励みすぐれた成果をあげているものを表彰するものです。

表彰の対象は、個人と集団があり、個人の部は、個人経営で、水田二ヘクタール以上、畑五十アール以上の耕地保有者で、長年土づくりを実行し、成果をあげている農家。集団の部は五戸以上の集団で、集団活動により土づくりをしているものとなっています。

審査の結果、集団二と個人五人が優秀賞に輝き、農村婦人大会の席上、表彰されました。

被表彰者は次のとおり。

集団の部

○上里山稲作営農組合（一川崎信吾代表、組合員二十七人）

ケイカルの請負散布を実施し、良質米安定増収と稲作省力化による施設園芸部門を充実

○葛塚そさい園芸組合（トラクター部（笹川芳男代表、組合員二十四人）

水田にケイカルを散布し、中核農家による請負方式を実施。良質米安定増収のほか稲わらたい肥のハウス施用により、良品を増収

個人の部

○渡辺憲一（浦ノ入）有機農法によるたい肥の増施や深耕による有機質施用で、健苗育成や健全栽培を実施。

○山崎正義（灰塚）稲わらの秋すきこみ、ケイカル施田により、良質米八十日栽培実施。

○佐藤千代治（高森新田）湿田の稲わらを利用し、ハウスに良質たい肥を施用。トマトの増収をはかる。

○相馬卓司（浦木）稲わらを収集して、乳牛の敷わらとし水田及び畑に還元。

○橋本辰朗（新井郷）水田稲わら収集と畜産農家からのおがくずたい肥により、ハウスの増施をはかり、施設野菜を増収。

ケイカルとは

金属精錬の際の残渣でありケイカルのほか珪酸石灰ともいう。

主成分の珪酸・石灰のほか苦土、マンガン、鉄などの要素を含有する。土壌改良剤として使われ、老朽化水田に対し適した肥料で、水田のみならず、畑の酸性改良にも効果がある。

写真は、土づくりコンクールでの表彰式

昨年の火災と救急

休診センター

一休日73回の利用

昨年一年間の火災件数、救急車の出動回数、休日診療センターの利用状況などが、まとまりました。

◎火災と救急

火災件数は十六件で、前年より五件減少し、焼失面積は二百九十四平方はでした。

救急車の出動回数は七百七十三回で、一番多い月は八月の九十二回でした。八月が一番多いのは、お盆の帰郷による車の居眠り運転による事故などによるものです。

一日の平均出動回数は二回ほどですが、多い日には八回も出動し、三台の救急車が全部出動中に、また出動要請があることが、多くありました

出動要請の中には、ちょっとした切り傷や軽い感冒程度の例もあるそうです。もし、このように出動要請によって救急車が出動している最中に生命にかかわる事故が発生した場合を考え、軽いけがや病気の場合、安易に救急車を要請することは、自重して欲しいと、消防署では言っています。

火災や救急出動のほか、火災に至らない小さな事故や、他市町村の火災の応援出動などを含むと、昨年一年間の総出動回数は八百十四回で、一日平均二・二回の出動になります。なお、消防車や救急車が一回も出動しなかった日は、昨年一年間で四十七日でした

◎休日診療センター

昨年一年間の休日診療センター利用回数は、四百八十一回でした。

正月三が日を含んだ総休日数は六十六日でした。一休日当たりの平均利用回数は、七・三回です。

診療科目別による利用回数は、小児科百九十二回、内科百五十回、外科百六回などとなっています。

消防署では、休日診療センターの利用については、まだまだわかままな人がいると言っています。たとえば、診療センターを通じて医師の治療を依頼しておきながら、距離が遠いなどの理由で、医師の治療を受けない人がいるそうです。依頼を受けた医師は、急用があっても待機しているわけです。医師を依頼した場合は、必ず治療を受けてください。もし、依頼した後で治療を受けなくてもよくなった場合や、タクシーなどの都合で治療を受けるのが遅くなる場合などは、必ず診療センターか医師へ連絡してください

休日診療センター制度は、休日に急患の診療に応ずる医療機関を、電話でお知らせする方式です。

休日とは、日曜、国民の祝日（振り替え休日を含む）、正月三が日のことです。

診療時間は、午前九時から午後五時までです。

休日診療センターは、消防署内に設けられており、電話は六～九二二二です。他の電話は使用しないでください。

豊栄市の医師も参加していますので、ご利用ください。

○診療時間

（休日）

九時～一六時半

（休日夜間）

一九時～二二時半

○診療場所

新発田市役所一階

（電話〇二五三（四）三二七一）

市民のみなさんも利用を

新発田市休日夜間診療所

市の休診センターのほかに新発田市で、休日夜間診療を実施しています。

これは、新発田市豊栄市北蒲原郡医師会が担当している新発田市休日・休日夜間救急診療所です。

工事中です

（工事名、請負者、契約金額、完成予定月日、施工地の順。契約金額百万円以上）

○市役所機場内装その他工事、内山工務店、百三十二万円、葛塚

○早通団地支線一号外二線舗装工事、㈱本間組、二百九十五万円、早通南

○長浦中学校電灯配線放送配線幹工事、菅原電気商会、二百二十五万円、浦木

○消防署木崎出張所新庁舎土留工事、㈱品田組、七百八十七万円、木崎

○国鉄早通駅黒山駅自転車置場整備工事、佐藤儀組、四百九十一万円、早通・黒山

○見国山公園築造第二次工事、㈱佐久間組、三百四十五万円、見国山

○下大口公園築造第二次工事、㈲伊藤土建、四百三十万円、下大口

○豊栄南運動公園テニスコート整備工事、上杉組、百七十万円、嘉山

○若葉保育園前農業用水路土留工事、豊岡組、百二十五万円、新鼻

○葛塚環状線照明灯設置工事、㈲共栄電気、百四十八万円、東栄町三丁目・嘉山一丁目

○駅裏停車場線道路築造工事、㈱清水組、四千八百二十五万円、葛塚

○新井郷通学路舗装工事、㈱大栄建設、百四十七万円、新井郷

○葛塚東小学校外構設置工事、豊岡組、五百三十八万円、朝日町

○岡方第二小学校外柵工事、高橋組、百四十五万円、森下

○下土地亀通学路舗装工事、豊栄道路㈱、百五十万円、下土地亀

（以上いずれも三月三十一日完成予定）

（水道事業）

○新新バイパス側道第二工区配水管布設工事、砂原工業所、二百四十五万円、三月二十五日、樋ノ入

○内島見配水場基礎杭製作工事、久保田鉄工㈱東京本社、七千五百七十万円、三月三十日、内島見

○競馬場専用線第三工区配水管布設工事、佐藤建設・長井商事共同企業体、三千七百万円、三月三十一日、浦ノ入、笹山

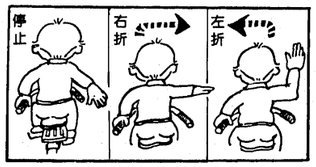
（以上第六次拡張事業）

○配水管布設替工事、㈱五十嵐組、三百十五万円、三月二十六日、嘉山四丁目

○配水管布設替工事、豊栄ガス水道㈱、二百六十万円、三月二十六日、川端町

自転車のルールを守ろう

四月六日から春の全国交通安全運動



自転車を運転するときの合図

新学期を迎えて、四月六日から十日間、恒例の「春の全国交通安全運動」が行われます。

昨年一年間の交通事故による死者は、八千四百六十一人を数えました。これは、前年より三百二十二人少なく、昭和四十六年以来「九年連続減少」という快記録をマークしましたが、死者のうち、およそ二人に一人が歩行者か自転車利用者です。くれぐれも注意してください。

自転車に乗っていて、思わずヒヤッとした経験は、だれにも一度や二度は必ずあるはずです。

現在、日本の自転車保有台数は四千五百万台を突破してアメリカに次いで世界第二位にランクされています。その普及率は国民二人に一台という文字通りの"自転車王国"となっています。

それだけに車と自転車による人身事故は、きわめて高い数字を示すようになりました昨年一年間だけでも七千人の生命が失われています。

これは歩行者事故のちょうど半分。「二人に一台」という自転車の普及率と符合するのは単なる偶然の一致なのでしょうか。

ところで自転車利用中の死者の年齢別統計をみてみますと、ここでも歩行者の場合と同じように七十歳以上（二百三十二人）が一位、二位が六十歳代（二百十三人）そして三位が小学生の百十七人となっています。

この事実は、自転車の運転も的確な判断力や反射神経を必要とすることを物語っているのではないでしょうか。

死亡事故を分析してみますと、斜め横断や、信号無視、急なとび出しなど、自転車の交通ルール違反が大きな原因となっています。

自転車にも右・左折、さらに停止する時の合図が決められていますから、これらのルールを必ず守りましょう。